

【学生フォーラム】

康生通り周辺商店街来街者実態調査報告

愛知産業大学経営学部 藤木ゼミ 久納健司、中山貴之、水谷俊樹

問題意識

新しく高層マンションや図書館の建設が行われ、変容を遂げようとする康生通りを、単に郊外のショッピングセンターとの物販競争の競合拠点としてではなく、新たな暮らしの共生拠点として棲み分けていく視点から康生通りを捉え直すことにより、新しい地域文化の発信基地としての存在可能性を考える。

1. 調査概要

(1) 調査対象 (サンプル)

康生通りを訪れたお客様、商店主・店員

(2) 調査日時

調査期間：平成 19 年 5 月 21 日～6 月 11 日の毎週月曜日 4 回

調査時間：14：00～16：00

(3) 調査方法

調査地点：康生通り周辺商店街の任意の拠点

調査手法：単純無作為抽出法によるアンケートによる聞き取り・記入方式

調査目的：来街動機

計画サンプル数：100 人以上

有効サンプル数：100

2. 我々が着目したアンケート結果 (順不同)

- ・ 店の標識や目印等を多くしてわかりやすくしてほしい
- ・ バザー
- ・ 古着屋が多いので各店舗ごとに自分の店のスタイルをみんなに見てもらえる場を設けてほしい
- ・ ファッションショー
- ・ 古着屋を増やしてほしい
- ・ フリーマーケット
- ・ 参加型イベントの充実
- ・ 古着屋ばかりでなくもっと女性が入りやすいような店がほしい
- ・ 女性が参加できるようなイベントがほしい (例、ダンス大会、レゲエ、)
- ・ もう少し遊べる街にしてほしい

3. 我々の提案

(1) 事業領域

「売らない」ストリートを目指して

(2) コンセプト

「ファッション・インキュベーター康生」

「フリースタイル・康生」

「コラボスタイル・ファッション・康生」

：物を売る街（商店街）ではなく、文化・情報発信基地ストリート（Street）として、売らないことをテーマとし、若いブティック経営者の出店による多種多様ななんでもありの雑多なファッション感覚とビジネスを育む孵化器（インキュベーター）空間としての通り（ストリート）と考える。

(3) 具体的展開方法

- ・ 籠田公園のステージを中心にファッションショーを行う。モデルさんは各店舗でお客さんになってもらうもよし、思い思いに遊び・趣味感覚で調達する。
- ・ 各店舗の前にレトロチックな木製の看板を掲げ、自分の店のこだわり・スタイルを説明・案内する。
- ・ インキュベーターとして、空き店舗などへ若手経営者を積極的に誘致する。
- ・ 彼らのクチ・コミュニケーションを活用する。

以上